

## 四旬節第三主日

福音朗読 ルカ 13・1-9

2022.3.20

カトリック高円寺教会

ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

悔い改めるとは、自分を見つめ直し、新たな自分を発見することだと思います。

今日の福音には、二つの事件の真実が述べられています。

一つ目はピラトの罪です。歴史にはピラトの多くの暴行について記載されています。過越節ガリラヤから巡礼者のグループが暴行に巻き込まれてしまいました。イスラエル人たちはずっと自由に憧れていました。ですから、彼らはローマの門衛と口論しました。ピラトは、聖殿の秩序を維持するため兵士にガリラヤ人たちの殺害に介入するよう命令し、聖殿を冒涇しました。彼らはイエス様にローマ人に反対する言葉を期待していました。しかし、イエス様は、「この亡くなった人たちは罪の有無に関係ありません」と言いました。同時に、彼らを招き、「悔い改めることが必要だ」とも言いました。

二つ目はシロアムの塔が倒れたことです。シロアム塔が倒れ、亡くなった18人は罪の有無には関係ありません。これは、不幸な事だと思います。

イエス様はわたしたちに考え方を考えるよう招きました。今、ウクライナの戦争で多くの人たちが殺されています。ウクライナ市民や兵士、ロシアの兵士などたくさんの方が亡くなっています。ロシアがウクライナを侵略したことは事実です。問題は、独裁者だと思います。暴力は暴力で問題を解決できません。

ユダヤ人は彼らを制圧した人を憎しみと報復を抱いていました。しかし、イエス様はわたしたちに思考を変え、悔い改めるように招きました。実に自分を変えることは大変難しい事です、時間もかかると思います。

そこで、福音の最後にいちじくの木のとえを述べました。果樹園の主が、3年も実らないいちじくの木を園丁に伐採するようにと命令しました。しかし、園丁は「もう1年間様子を見ましょう、しっかりと根っこ周りの土を解いて、肥料をやればきっと来年に実ると思います。それでも、実らなかつたら、おっしゃった通りに伐採しましょう」と1年間のチャンスをもたらすことができました。園丁がいちじくにチャンス与えたように、神様は人間に悔いを改めるチャンスをくれています。

わたしたちが神様の言葉を聞き入れ、自分自身の心中で良い実を結ぶことができますように頑張らしましょう。

人は神様の光を求めるべきです。四旬節は神様の恵みの時期です。いちじくの木にとっても、今は大切な期間です。良い実がなるようにしっかりと土を耕し、肥料と水分を十分に与え、たくさんの実がなると、夏から秋にかけて熟していきます。わたしたちにとっても、この時期は自分自身の成長する時です。ただ毎年歳を取って、シワとシミ、脂肪だけが増えて、ダラダラと過ごしていませんか？ 人の命はとても貴重です。簡易に自分たちの時間を浪費してはいけないと思います。この機に自分を見直し、悔い改め、信仰を深めるように考えてみませんか？

このミサで、ウクライナでの戦争で亡くなった方や難民たちのために神様に祈りを捧げ、彼らの上に癒しと慰め、恵みが与えられますように、そして、世界平和のために祈りましょう。